

■第1節 最強の表現

呂布，字は奉先なり。五原郡の九原の人なり。驍武を以て，并州に給す。

○烏丸伝に曰く…蹋頓は，また驍武たり。辺の長老は，皆これを冒頓に比ぶ。

刺史の丁原は，騎都尉となり，河内に屯す。布を以て主簿となす。

大ひに親しく待せらる。

靈帝の崩ずるや，原は兵を將ゐ，洛陽に詣づ。何進とともに，諸黄門を誅さんと謀る。

執金吾を拜す。進の敗るるや，董卓は京都に入り，まさに乱をなさんとす。

原を殺し，その兵衆をあわさんと欲す。卓は，布の原に信ぜらるるを以て，

布を誘ひ，原を殺さしむ。布は原の首を斬りて，卓に詣づ。

卓は布を以て，騎都尉となす。はなはだ，これを愛信し，誓ひて父子となる。

布は弓馬に便し，膂力は人に過ぐ。號して，飛將となす。

○董卓伝曰…卓は，膂力は人に過ぎ，左右に馳せ射る。羌胡の畏るる所となる。

○任城威王の彰は，字を子文という。少くして射御を善くす。膂力は人に過ぐ。

手ずから，猛獸と格す。

ややして中郎將に遷り至る。卓は自ら，人を遇するに礼なきを以て，

人の己を謀るを恐る。行くも止まるも，つねに布を以て，自ら衛らしむ。

然るに卓は，性は剛にして褊たり。忿りては，難を思わず。かつて小さく意を失ひ，

手戟を抜きて，布に擲ぐ。布は拳捷して，これを避く。

卓のために顧謝す。卓の意は，また解す。これにより，陰かに卓を怨む。

卓は常に，布をして，中閤を守らしむ。

布と、卓の侍婢とは、私に通ず。事の発覚するを恐れ、心は自ら安ぜず。

○史記李広伝曰…広は右北平に居る。匈奴はこれを聞き、號して曰く、漢の飛將軍。

○漢書李広伝曰…広は郡にあり、匈奴は號して曰く、漢飛將軍。これを避く。

■第2節 1ヶ月半の天下

これより先、司徒の王允は、布の州里で壯健たるを以て、厚く接纳す。のちに布は允を詣で、卓に幾たびか、殺さるるの状を陳ぶ。

時に允は、密かに卓を誅さんと謀る。これを以て、布に告げ、内応せしむ。

布曰…「父子の如くあるを、いかんせん」

允曰…「君自姓呂、本^{ヨリ}非^ニ骨肉」。今憂^レ死、不^レ暇。何^ソ謂^ニ父子？」

布は遂に、これを許し、刃を手にし、卓を刺す。語^ハ在^ニ卓傳^一。

允は布を以て、奮武將軍とし、節を假らしめ、儀は三司に比す。進めて温侯に封ず。

共に朝政を秉す。布は卓を殺してより後、涼州人を畏れ惡む。涼州人は、皆怨む。

これにより、李催等は、遂に相ひ結び、還りて長安城を攻む。

○英雄記曰…郭汜は城北に在り。布は城門を開く。兵を將ゐて、汜に就きて、言ふ。

「且卻^レ兵、但身、決^ニ勝負^一。」汜・布は、すなわち独り、共に対戦す。

布は矛を以て、汜を刺し中つ。汜の後騎は、遂に前して汜を救ふ。

汜・布は、遂に各ともに罷る。

布は拒むあたはず。催らは、遂ひに長安に入る。卓の死後、六旬なり。布はまた敗る。

○臣松之案、英雄記曰…諸書、布は四月二十三日を以て卓を殺す。六月一日に敗走す。

時にまた閏なし。六旬に及ばず。数百騎を將ゐ、袁術を詣でんと欲す。

■3節 武力の真価

布は自ら、卓を殺したるを以て、術のために讎に報ゆ。以てこれを徳とせんとを欲す。

術は、その反覆たるを惡む。拒みて受けず。

北のかた袁紹を詣づ。紹と布は、張燕を常山に撃つ。燕の精兵は万余、騎は数千。布は良馬を有ち、赤兔と曰ふ。

○曹瞞伝曰…時人は語りて曰く「人中有_二呂布_一、馬中有_二赤兔_一。」

遂ひに燕の軍を破る。而して兵衆を益さんと求む。將士は鈔掠し、紹はこれを患忌す。布は、その意を覺りて、紹より去らんこと求む。

紹の恐るるは、還りて己のために害をなさんことを。壯士を遣わし、夜に布を掩殺す。獲らず。事は露わとなり、布は河内に走ぐ。

■第4節 軍師、陳宮の思惑

興平元年、太祖は、また陶謙を征す。張邈の弟たる超は、太祖の將たる陳宮と、ともに太祖に叛すを謀る。宮は邈に説きて曰く、

「今、州軍は東に征き、其処は空虚たり。呂布は壯士なり。

若し権りて、これを迎えなば、共に兗州を牧すべし。

天下の形勢を観るに、時事の変通を俟つ。これまた、縦横の一時なり。」
邈は、これに従う。

○魚氏典略曰…陳宮、字は公台、東郡の人なり。剛直にして烈壯たり。

天下の乱るるに及び、始め太祖に隨ふ。後に自ら疑ひ、すなわち呂布に従う。

布のために畫策す。布は毎も、其計に従わず。

太祖初、使宮將兵、留屯東郡、遂以其衆、東迎布、為兗州牧、拋濮陽。

郡県皆応、唯鄆城、東阿、范、為太祖守。

太祖引軍還、與布戰 於濮陽、太祖軍不利、相持 百余日。

是時 歲旱、蟲蝗、少穀、百姓相食、布東 屯山陽。

二年の間、太祖は乃ち、盡くまた諸城を收む。布を鉅野に撃破す。布は、劉備に奔る。

○英雄記曰…布は備に見え、はだはだこれを敬う。備に謂ひて曰く。

「我と卿とは、同じく辺地の人なり。布の卓を殺して東に出でるや、関東の諸將は、布を安ずる者なく、皆、布を殺さんと欲すのみ。」

備を名んで、弟とす。備は見ゆるに、布の語る言は、常なし。外然之、而内不説。

邈は布に従ふ。超を留め、家属を將ゐて、雍丘に屯せしむ。

太祖は、攻囲すること数月。これを屠る。超および、その家を斬る。

邈は袁術に詣で、救ひを請ふ。未だ至らずして、自らその兵の殺す所となる。

■第5節 袁術の徐州刺史

備は東に術を撃つ。布は襲ひて、下邳を取る。備は還りて、布に帰す。

布は、備を遣りて、小沛に屯せしむ。布は自ら、徐州刺史を称す。

○英雄記曰…布は初め、徐州に入るや、書を袁術に與ふ。術は書に報いて曰く。

「將軍は卓を誅し、その頭首を送る。術のために、讎恥を掃滅す。それ功一也。

金元休は兗州に向ふ。曹操のために、逆し、拒み破るる所となる。

將軍は兗州を破る。術また、遠近に明目す。それ功二也。

術は生れたる年より已に来るまで、天下に劉備あるを聞かず。備は乃ち、

兵を擧げ、術と対戦す。以て備を破るを得。それ功三也。

將軍は、三大功あり。將軍は連年、攻戦す。軍糧は少きに苦しむ。

いま米二十万石を送らん。」

布は書を得て、大ひに喜ぶ。遂ひに下邳に造る。

○英雄記曰…備の中郎將、丹楊の許耽は、來りて布に詣じ、言ふ。

「張益徳と、下邳相の曹豹は、共に争ふ。益徳は豹を殺す。城中は大ひに乱れ、相ひ信ぜず。將軍の兵は、城の西門に向へ。丹楊の軍は、すなわち門を開き、將軍に内すなり。」布は遂ひに夜に進み、晨に城下に到る。

○英雄記曰…建安元年六月夜半時，布將タル河内ノ郝萌ハ反ス。

都督高順，斫萌首。萌將曹性，反萌。布問性，言「萌受，袁術謀。」

「謀者，悉クハ誰ゾ？」性言「陳宮同ジク謀。」

時宮在ニ坐上ニ，面赤，傍人悉ク覺レ之。布以ニ宮大將ナルヲ，不レ問也。

■第6節 市場の原理

術は，將の紀靈らを遣わし，步騎三萬にて備を攻む。備は救ひを布に求む。

布の諸將は，布に謂ひて曰く，

「將軍は常に，備を殺さんと欲す。今は術に，手を假すべし。」

布曰く、「然らず。術は若し，備を破らば，則ち北は泰山の諸將に連なる。

吾は術のために，困の中にあり。救はざるを得ざるなり。」

すなわち歩兵千、騎二百を嚴し，馳せて往き，備に赴く。

靈らは，布の至るを聞き，皆，兵を斂め，敢へて復た攻めず。

○臧霸伝曰…臧霸，字宣高，泰山華人也。父戒，據法不聽，太守欲所私殺。太守大怒，令收戒，時送者百餘人。

霸年十八，將客數十人，徑於費西山中，要奪之。送者，莫敢動。因與父俱，亡命東海，由是以勇壯聞。

黃巾起，霸從陶謙，擊破之。拜騎都尉。遂收兵於徐州。與孫觀、吳敦、尹禮等並聚衆。霸為帥，屯於開陽。

太祖之討呂布也，霸等將兵助布。既禽布，霸自匿。太祖募索得霸，見而悅之。

太祖以霸為琅邪相，敦利城、禮東莞、觀北海、康城陽太守。割青、徐二州，委之於霸。

布は，沛の西南一裏に屯を安ず。

靈らは，また布に，共に飲食せんと請ふ。布は靈らに謂ひて曰く，

「玄德，布弟也。弟為ニ諸君ニ所レ困，故來救レ之。

布性不レ喜ニ合ニ門一，但喜レ解レ門耳。」

布は，門侯に令し，營門中に，一隻の戟を挙げしむ。布は言ふ。

「諸君ハ觀ニ布射戟小支一，一發中者，諸君當解去，不レ中可ニ留決門一。」

布は弓を挙げ，戟を射る。正に小支に中る。諸將は皆，驚きて言ふ。

「將軍は、天威なり。」明日、復た勸会し、然る後に、各罷る。

■第7節 軍師、陳珪の怨み

術は布と結びて、援と為さんと欲す。すなわち子のため、布女を索す。布許之。術は韓胤を遣りて、僭號を以て議す。布に告げ、並せて婦を迎へんと求む。

沛相の陳珪は、術・布に婚の成るを恐る。ここにおいて、往きて布に説きて曰く。

「曹公は、天子を奉迎す。今、術と婚を結ばば、天下に、不義之名を受けむ。」

布はまた、術の初めに、己を受けざるを怨む。女は、己に塗に在れども、追ひて還し、婚を絶つ。

術は怒り、大將の張勳を遣わし、布を攻む。勳は、大ひに破敗す。

始め、布は徐州牧を求む。除せられず。布は怒りて、戟を抜きて珪に曰く、

「卿は吾に、曹公と協同せんと勸む。公路と婚するを絶つ。」

いま吾は、求むる所を一も獲ることなし。卿の売る所となるのみ」

■第8節 陳宮と高順

建安三年、布は復た、術のために叛く。高順を遣り、劉備を沛に攻む。これを破る。

太祖は夏侯惇を遣わし、備を救へども、順のために敗らる。太祖は自ら布を征つ。

その城下に至る。太祖は布に書を遣し、ために禍福を陳ぶ。

布は降らんと欲す。陳宮ら、自ら罪を負ふに深きを以て、その計を沮む。

○獻帝春秋曰…布は白門樓の上にて、軍士に謂ひて曰く、「我當自首明公。」

陳宮曰…「逆賊曹操、何等明公！今日降之、若卵投石、豈可得全也！」

布は人を遣りて、術に救ひを求む。術はまた、救ふ能はず。

○英雄記曰…布の恐るるは、術は女の至らずして、故に兵を遣して救わざるなり。

綿纏した女の身を以て、馬上に縛著す。夜に自ら女を送り、出でて術に与へんとす。

太祖の守兵と、相ひ觸す。格射され、過ぎるを得ず。また城に還る。

○英雄記曰…布は、陳宮・高順をして、城を守らしめんと欲す。

自ら騎を將る、太祖の糧道を断たんと欲す。

布の妻は、謂ひて曰く…「將軍の一たび出づるや、宮・順は、必ず心を同じくせず。將軍は當に、何ずこに於いて自立せんや？いま須らく妾を顧みざるなり。」
布は妻の言を得、愁悶す。自ら決す能はず。

■第9節 最期の面接

布は驍猛と雖へども、然るに謀なく、猜忌は多し。能く其党を制禦せず。

ゆえに戦ふ毎に、多く敗る。太祖の塹圉は、三月。上下は離心す。

其將の侯成、宋憲、魏續は、陳宮を縛りて、降る。遂ひに生きて布を縛る。

布曰…「縛太急、小緩レ之。」太祖曰…「縛虎不レ得レ不レ急也。」

布請曰…「明公の患ふ所、布に過ぎざる。いま已に服す。天下は憂ふるに足らず。

明公は歩を將る、布に騎を將めしめよ。すなわち天下は、定むるに足らざるや。」

太祖は、疑色あり。劉備は進みて曰く、

「明公は、布の丁建陽および董太師に事ふるを見ずや」太祖は、これに頷く。

布は因りて備を指して曰く「是兒^ハ最^モ不^レ能^レ信者。」

これにおいて、布を縊殺す。布と宮、順らは、みな梟首され、許に送らる。

○典略曰…太祖は宮に謂ひて曰く、

「公台、卿は平常より、自ら智計は餘りあると謂ふ。今竟ひに何如なるや」

宮は顧み、布を指して曰く、

「但だこの人の、宮の言に従わざるに坐す。若しそれ従わるれば、

また未だ、必ず禽とならざるなり。」